

### 1. 授業の概要

本授業の目的は、自然と共存する社会形成に必要な知識を学び、自然地理学的な環境理解を私達の社会・文化生活に関連づけて身に付けることである。

授業は以下のように、予習>>答え合わせ・解説>>演習 の手順で進め、時間外学習として必ず予習をして授業に臨むように指示した。まず、事前に次の授業の内容の要点を整理したプリント（A4サイズ1枚）を配布し、教科書を参考にしながら空欄（主に地理学用語、しばしばグラフや図の読み取り）に記入してくるよう指示する。授業では、冒頭5分ほどで教員が受講生を指名して全体で答え合わせをする。その際、プリントの記載に沿って教員が事項の解説を行う。答え合わせの後、パワーポイントを用いて、教科書の図表や教員の用意した地理写真を提示し、受講生の理解を深めた。残りの時間（1時間ほど）で、資料映像の視聴（7回）や地形図の読図（3回）、いくつかの課題（災害への備え、水資源問題の解決など）を行った。動画視聴や読図・課題討議にはワークシートを用意し、思考の言語化を図った。

受講生は 29 名（小学校サブコース 1 回生 17 名、中等教育コース 1 回生 6 名および 3 回生 1 名、特別支援教育課程 1 回生 4 名、大学

院生 1 名）で、学期末に授業に関するアンケート調査を行い、28 名から回答を得た。本授業は中学校社会科および高等学校地理歴史の教員免許科目である。

### 2. アンケート結果

#### 1) DP との対応

DP との対応についての問いに対する回答を、図 1 に示す。4 項目とも 3 割以上の受講生が「とてもそう思う」を選択し、「技能：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。」と「興味・関心・意欲，態度：教師としての使命感や責任感を持ち，自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ，自主的に社会に貢献しようとする」には、受講生の半数近い 13 名が「そう思う」と回答している。

#### 2) 授業の肯定的評価

「この授業の形式や内容について特に評価できる点があれば、挙げてください」という問いへの回答を、表 1 に示す。内容が興味深く、わかりやすかった、という評価が複数あった。「わかりやすさ」は具体的に、事前にプリント配布して予習を義務化し、スライドと動画で補足していく、という授業形式によるものだったと思われる。

また、動画視聴についての評価が高かった。動画の視聴は、具体的な自然景観や災害に関

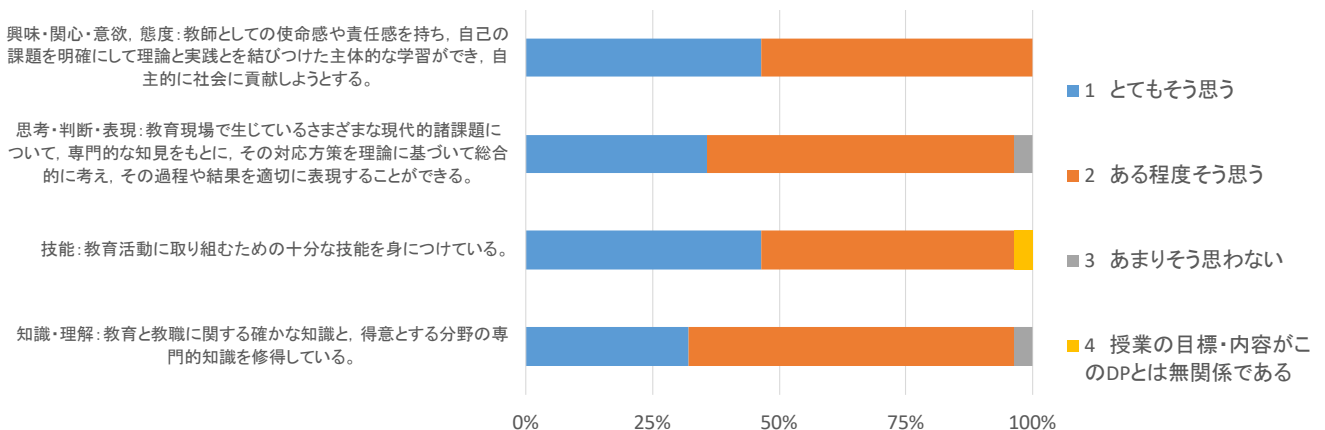


図1 本授業とDPとの対応について

表1 授業の肯定的評価

この授業の形式や内容について特に評価できる点があれば、挙げてください。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味深いようだった</li> <li>・分かりやすかった (3名)</li> <li>・プリントがわかりやすかった (5名)。</li> <li>・予習の形式が良かった (3名)</li> <li>・ワークがあって面白い点</li> <li>・先生の作成した授業スライドが理解に役立った</li> <li>・動画を見ることができたのでいろいろな知識を得ることができた (8名)</li> <li>・先生が優しく、説明が丁寧な点</li> </ul>

表2 授業の改善案

この授業の学習効果を高めるための改善案を、一つ以上ご提案ください。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書の字をもう少し大きくしてほしい。</li> <li>・プリントは事前に穴埋めよりも解説を受けながら埋めていく方が理解しやすいかもしれないと思った</li> <li>・穴埋めを授業の進捗と同時にする。最初にしてしまうとその後の授業で眠くなってしまう。</li> <li>・教科書の参考ページを毎回プリントに記入してほしいです。</li> <li>・もう少し詳しく教科書の内容を深くして欲しい</li> <li>・スライドがもう少し分かりやすくなれば良いと思う。</li> <li>・パワーポイントにももう少し文字があったら復習しやすくなると思いました。</li> <li>・語句の理屈やその地形が見れる有名な場所を教えてください</li> <li>・動画をたくさん見る</li> <li>・動画を完全に見ることができないことが少しあったので、少し短い動画にするのもいいのではないかと考える。</li> <li>・ワーク・ペアワーク・グループワークなどを増やしたら良い (5名)</li> <li>・復習課題を出す (2名)</li> <li>・フィールドワークに出かける (2名)</li> <li>・自分の出身地域の地図を利用する。</li> <li>・愛媛県の地図から、学んだ地形がないか探す。</li> <li>・スポーツの授業のあとに自然地理をしない</li> <li>・眠っている学生が起きるような工夫があれば</li> </ul>

わった人々の様子を知ることによる教育効果のほかに、90分の授業にメリハリをつけられるメリットなどがある。動画の視聴はともすれば受け身になり居眠りを誘発するため、動画を注意深く視聴していないと記入できないようなワークシートを用意したことも、肯定的評価に繋がったと推測される。

### 3) 授業の改善提案

「この授業の学習効果を高めるための改善案を、一つ以上ご提案ください」という問いへの回答を、表2に示す。

まず、板書の文字については、おそらくプリントの空欄に入る用語の板書かと思われる

る。授業の初回には、板書の文字が読めるか、特に教室の最後尾の学生に向けて確認しているが、改めて確認していくようにしたい。新型コロナ感染対策のため、座席は受講生名簿順に指定しており、視力の低い学生が後方の座席に配置されている可能性もあるので、気をつけたい。

プリントについては、現在はまずはプリントの穴埋めを一通りしてから、スライドを用いた補足説明にしている。これは、スライド説明とプリントの穴埋めを同時進行させると、実はそこに更に教科書の参照も加わって、授業者も受講生も思考や作業が煩雑になる

ため、それを避けるためであった。しかし、後述するように、穴埋めが終わると残りの説明時に気が緩んで眠ってしまう学生もいる。例えば、プリントの穴埋め部分（テキスト情報）もスライドに適宜掲載することで同時進行の形にし、授業の緊張感が継続するように工夫したい。

スライドについて、もう少し文字が欲しいとのことだが、基本的には教科書やプリントで整理した地形を写真で提示してイメージを作ることや、教科書の図表を大きく表示して解説することを目的としたスライドのため、情報過多にならないよう文字情報をできるだけ少なくしている。ただし、今回は支援の必要な学生が受講していたため、その学生用に、口頭説明をパワーポイントのノートに記述した「授業スライド（ノート付き）」ファイルを moodle にアップして、全ての学生に共有されるようにしていた。このことは授業中にも何度か紹介したが、ほとんどの受講生には復習のために活用されなかった可能性がある。スライドの説明はノート付きスライドで復習するように、改めて指示したい。

動画については、インターネットで視聴できる字幕入り動画（NHK 番組のアーカイブ）が 1 時間近いものが多く、特に教育効果の望まれる部分のみを視聴することが多かった。できるだけ番組全体が授業時間内で視聴できるような動画資料の発掘に努めたい。

コロナ禍以前は、水資源利用の課題や防災の問題など、ペアやグループでディスカッションさせる機会をできるだけ設けていたが、今年度は感染予防のために全く実施できなかった。その分、教員が受講生を順番に指名して発言させ、全体で共有するという活動を行なったが、受講生からはこのようにアクティブラーニングの要望が高いため、来年度は導入していきたい。

### 3. 「地理総合」の授業力の育成に向けて

本年度より高等学校地歴の授業で「地理総合」が必修化されたが、現在の大学生には高等学校で地理の授業を受講したことがない人もいる。その人達は、高校の地理授業の経験がないまま、大学卒業後の教育現場で「地理総合」を担当する可能性がある。正しい地理知識とともに地理学の面白さを伝えられる教員を育成することが大学の教科専門科

目に求められる。

アンケートの結果からは、概ね「わかりやすい」授業ができていた手応えがあり、正しい地理知識の獲得には近づいている。とはいえ、期末試験の結果は 82.7 点（最高点 99 点、最低点 60 点）で、あまり成績のはかばかしくない受講生もいた。成績の良くない受講生の存在が、授業者の内容伝達力によるものか、受講生の興味・関心・やる気を引き出すことに成功していないためなのか、判断は難しい。例えば、受講生の成績と授業態度（興味・関心・やる気）の相関を分析できるようなアンケートを学期末に実施し、検討する方法があろう。

Z 世代らしく動画の視聴は好評であり、将来、地理の授業実践をする際の動画活用のヒント（学習効果を高めるために、視聴した内容をメモしたり動画をもとに考えさせるための課題を提示するワークシート配布）を示すことができた。今後も、地理的知識と技能を育成し、地理の面白さを伝達できる教員の育成に寄与できる授業を実践していきたい。